

フィールドワーク  
相模原と軍都計画

18N1036 此内 祐実

# 軍都計画とは・・・

相模原都市建設区画整理事業。

昭和10年代に陸軍関係施設が多数立地された事を契機に進められた、  
周辺町村と一体となった軍事都市の建設事業。

昭和12年以降になると、陸軍士官学校、相模陸軍造兵廠、  
その他の軍関係諸施設が次々と市域に移された。

この中で、国道16号線や市役所前通りは、横や縦の軸とされ、  
現在も残っている。

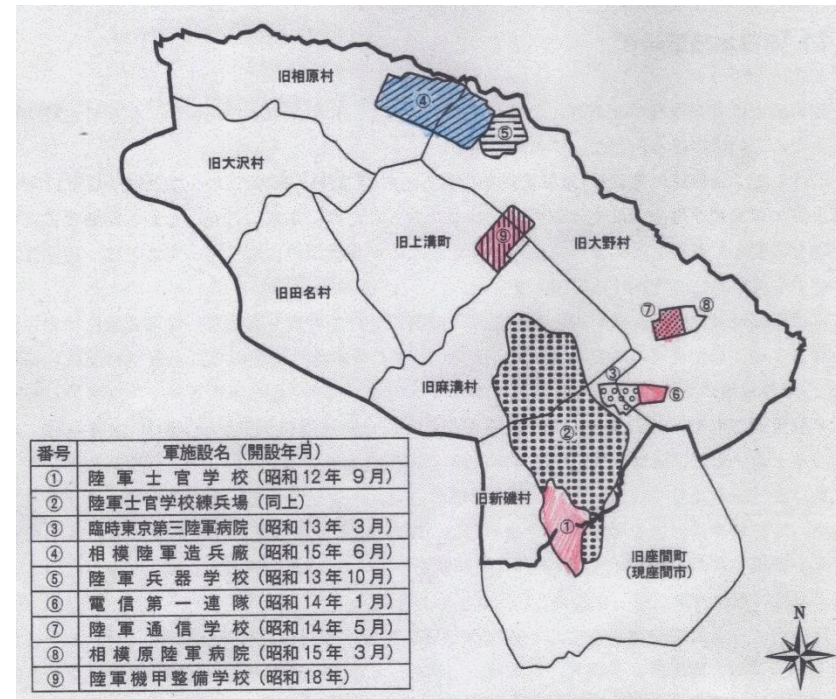
- 軍の施設の移転に合わせて県施行の軍都計画がスタートし、現在の本庁付近を含めた整然とした街区画が出来る。
- 第二次世界大戦の敗戦により、軍都計画は消滅したが、軍の諸施設の多くは米軍に接收され、基地の町となった。
- 相模原町内の米軍基地やその関連企業に多くの人々が職場を求め、町の人口が増加。

# 相模原の米軍施設の歴史

- 1937年 陸軍士官開設
- 1938年 臨時東京第三陸軍病院開設
- 1938年 陸軍兵器学校開設
- 1939年 電信第一連隊開設
- 1939年 陸軍通信学校開設
- 1940年 相模原陸軍病院開設
- 1940年 相模陸軍造兵廠開設
- 1943年 陸軍機甲整備学校開設

→わずか7年で開設が進められる。

この相模原という都市が軍都に選ばれたのは、東京に近く安価で広大な平地だったから。

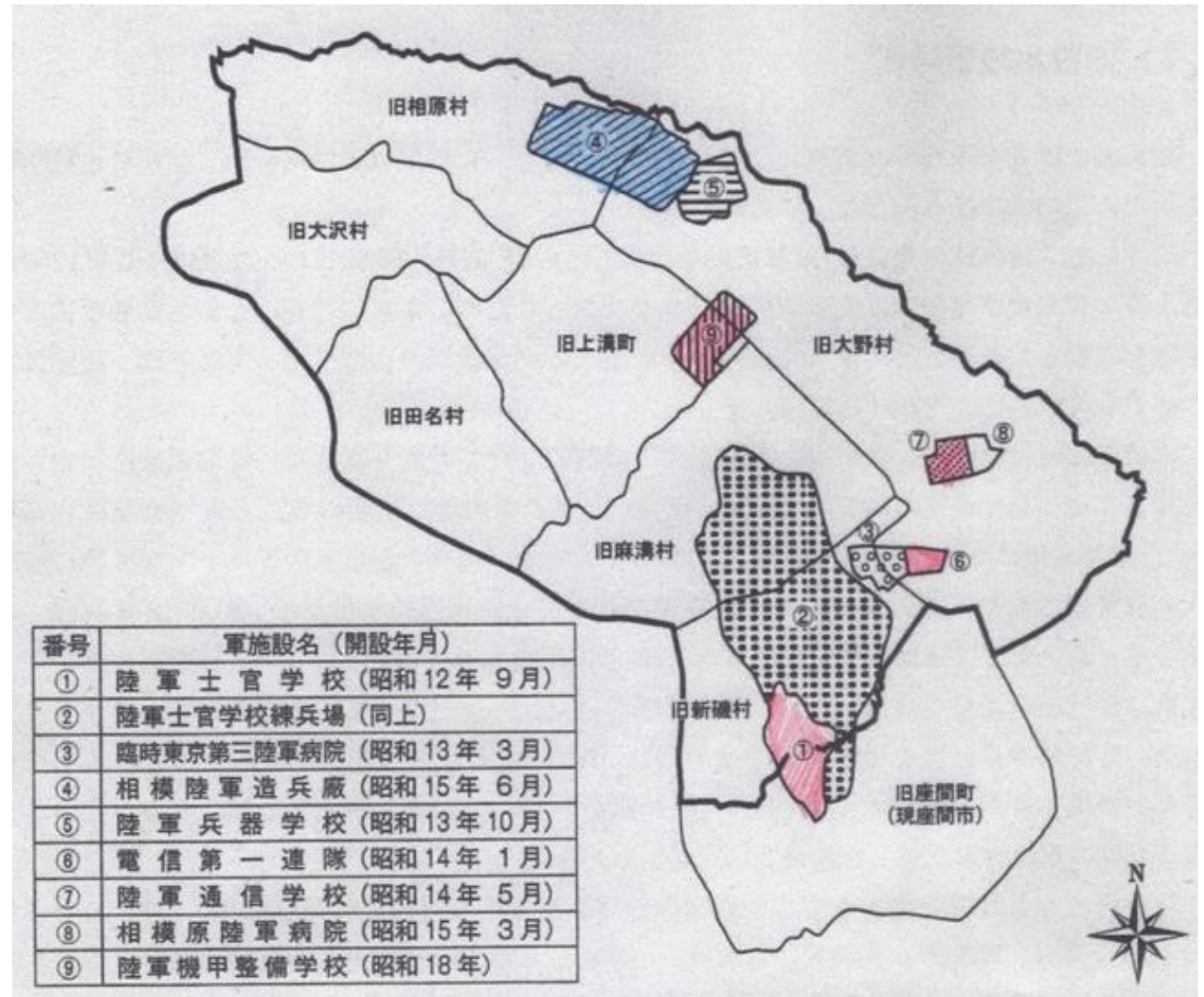


# 相模原の米軍施設の配置

学校関係の施設が南、武器関係の施設が北に位置している。

南部を学都、北部を軍都にしようとしていた。この計画が後に、景観の南北差につながる。（北部は広い道路網を持った工業都市、南部は狭い道路事情に悩む住宅都市）

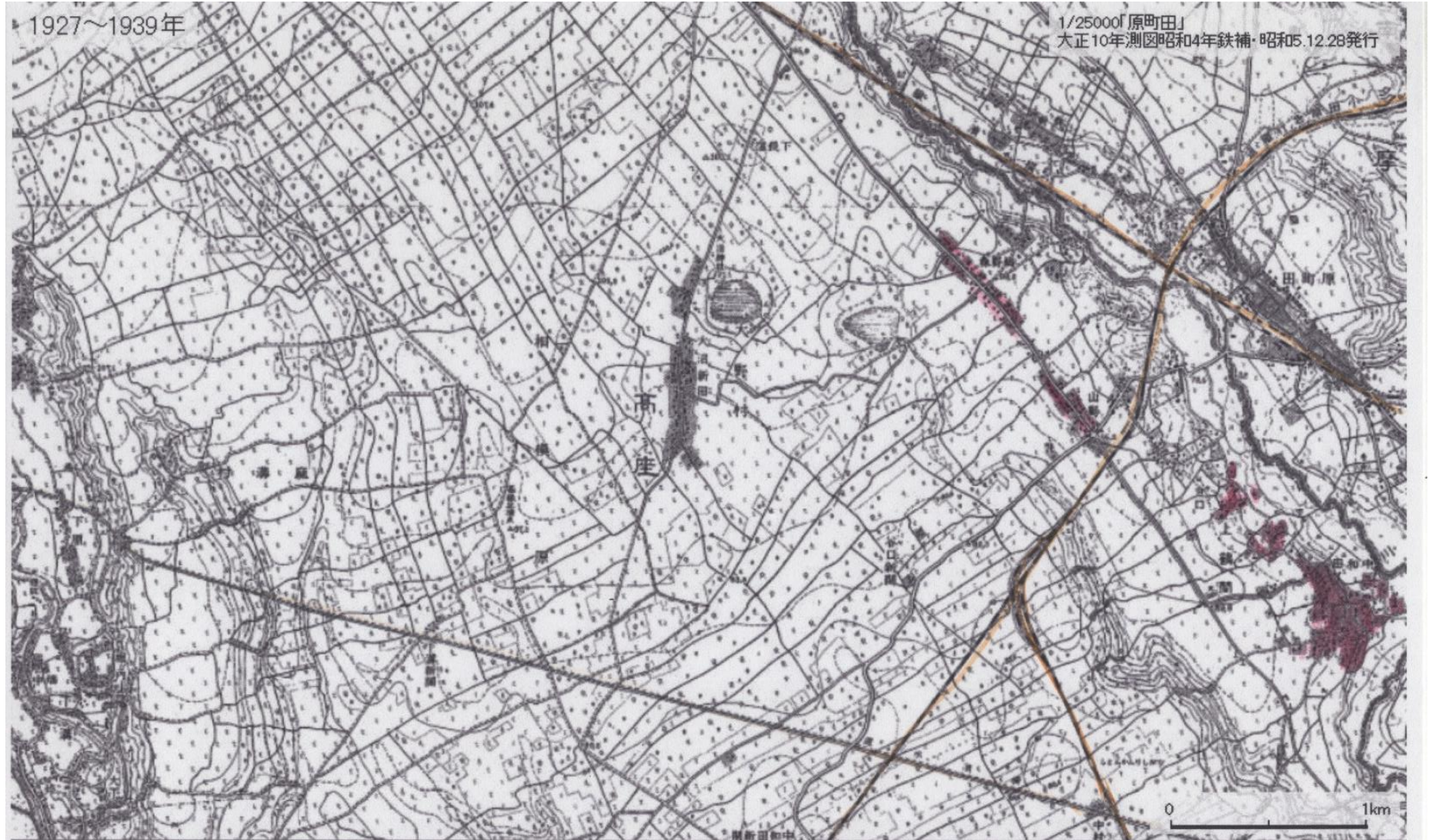
→後の住宅地の広がり方に関係





# 1927~1939年の地図

桑畑や森林だけで、住宅は多くない。ただ、軍都計画によって道が整備されていることが分かる。





# 1944~1954年の地図

ちょうど戦後の地図。陸軍通信学校があった位置に相模女子大学が出来る。

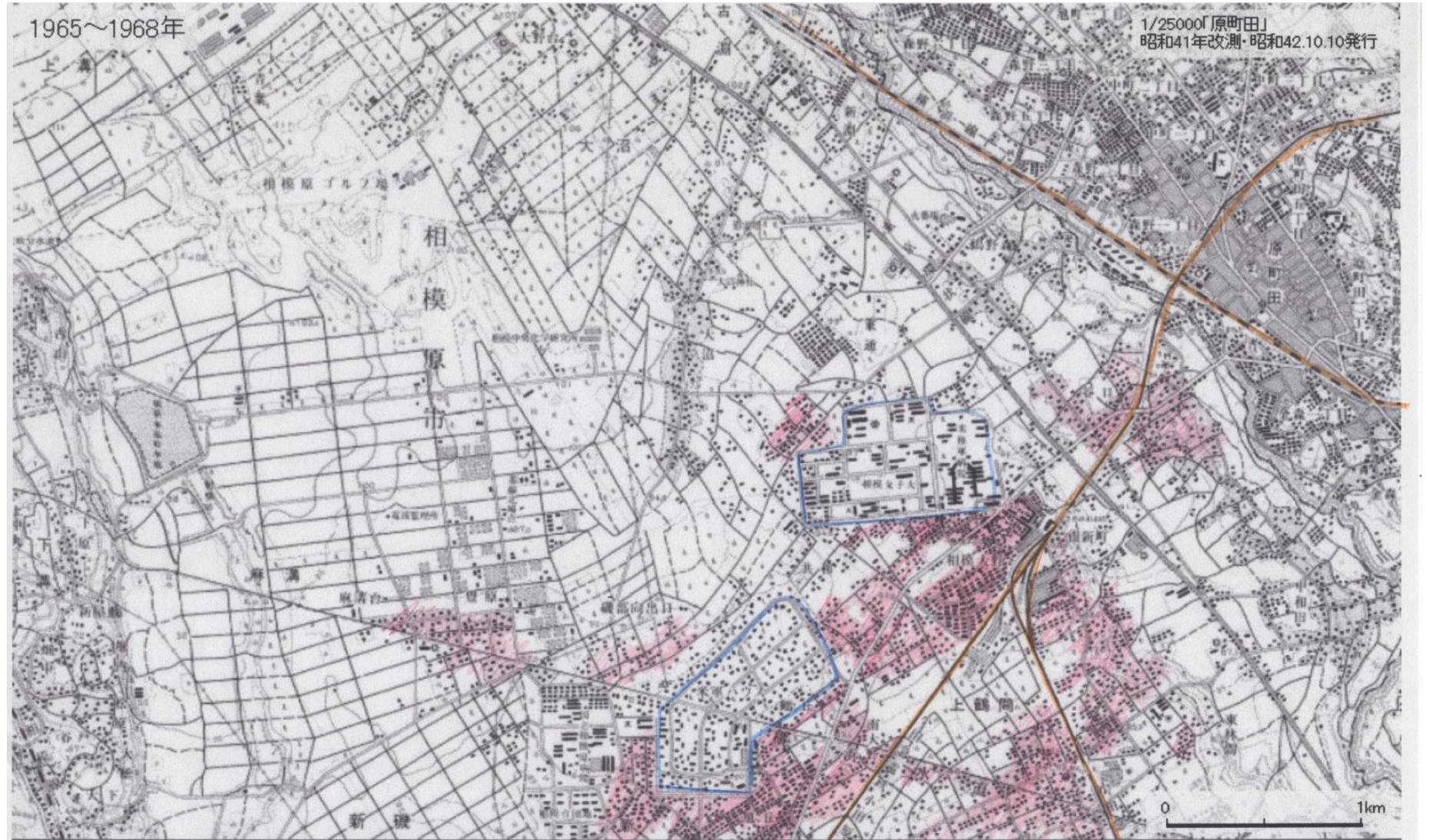
水道が通っている場所に米軍の住宅を開設している。





# 1965~1968年の地図

施設の周りを中心に住宅地が広がっている。  
南部から先に発展。  
元々は、この地域は学都として発展させようとしていたので、軍隊用の車両は通らないような狭い道になってしまった。





# 1975~1978年の地図

国道16号線に沿って住宅密集地が北上している。





# 現在の相模原

現在の街区画は、  
国道16号線に水平垂直に道路が  
出来ていると言われている。  
国道16号線は軍関係の車両が通  
るのに使われていたと言われて  
いて、道幅が広がっている。





# 現在の相模原

JR相模原駅周辺（航空写真）  
軍都計画の名残りで、道が広く  
整然としている。





# 基地の返還

座間小銃射撃場跡地 (1969年7月返還)

→ 県立相模原公園

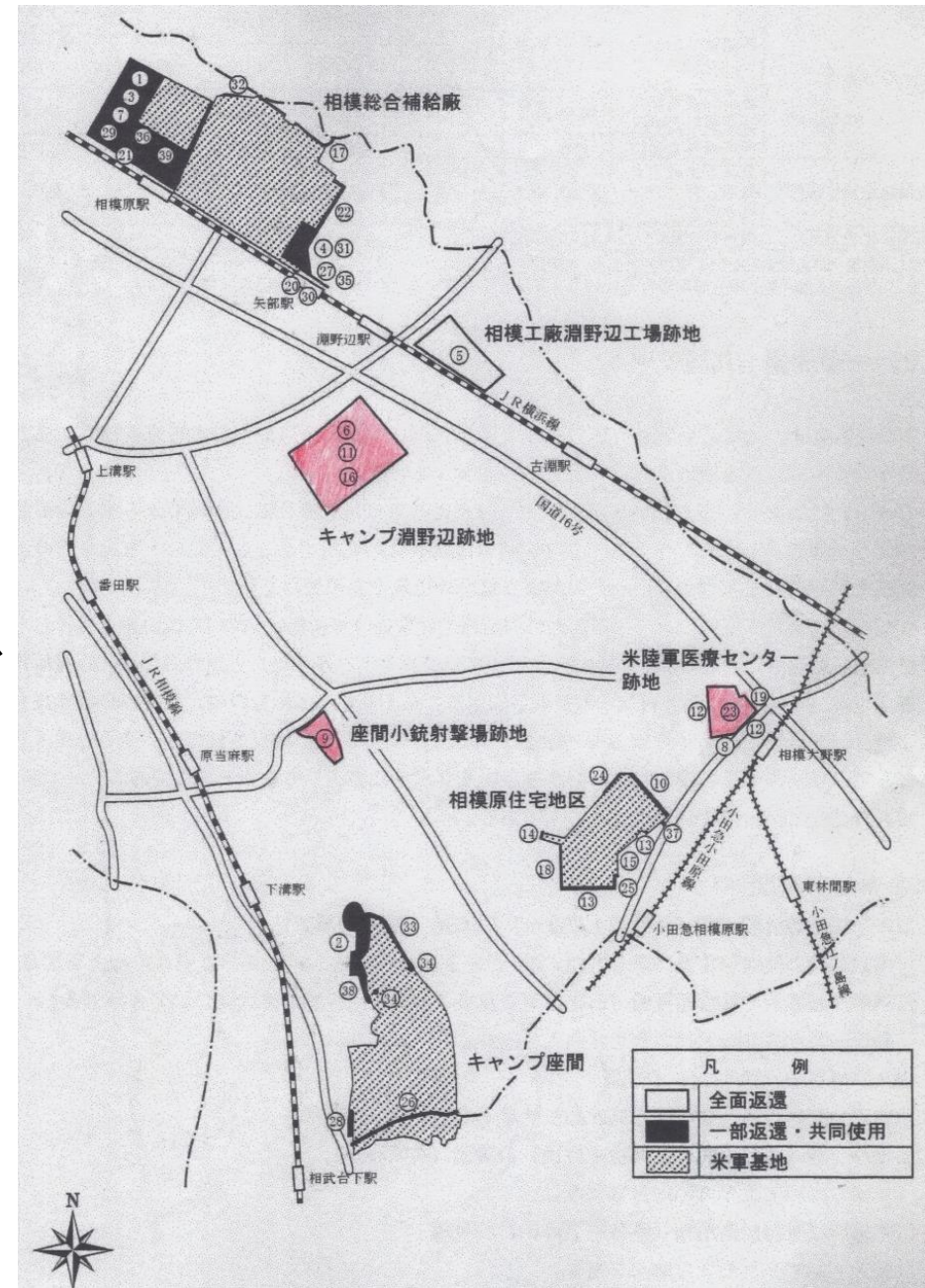
キャンプ淵野辺跡地 (1974年11月返還)

→ 市立淵野辺公園、市立博物館、  
(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)相模原キャンパス、  
ほか

米陸軍医療センター跡地 (1981年4月返還)

→ 伊勢丹相模原店、ロビーシティ相模大野、  
市立相模大野公園 ほか

返還された跡地は、公園や商業施設となっている。



# 基地の返還



座間小銃射撃場跡地  
(1969年7月返還)  
➡ 県立相模原公園



キャンプ淵野辺跡地  
(1974年11月返還)  
➡ 市立淵野辺公園、市立博物館、  
(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
相模原キャンパス、  
ほか



米陸軍医療センター跡地  
(1981年4月返還)  
➡ 伊勢丹相模原店、  
ロビーシティ相模大野、  
市立相模大野公園 ほか



# まとめ

- この相模原という土地は広大な平地だったので、軍都計画がなくてもいつかは繁栄していたかもしれませんが、軍都計画がこの地域の繁栄の大きなきっかけとなっていたことが分かりました。
- 米軍施設返還との関係についても、初めて知る事がほとんどで、調べていて面白かったです。21年間住んでいて、淵野辺公園や相模原公園が米軍施設の跡地だったことなど知らなかったし、市内にあるこういった大きな公園は市民の憩いの場になっていると思うので、米軍基地が返還された事によって住宅しかなかった相模原が、公園なども内包した住みやすい場所に変わっていったのだなと思いました。
- 私がこれまで米軍と相模原について、あまり歴史を知らなかったのも、現在の相模原の基地以外の場所に、残されているものが、文化なども含めて、あまり見つからないからというのが理由の1つではないかと思います。例えば、アメリカ人が多く利用している飲食店街などがあっても不思議ではないと思いますが、そう言ったものはありませんでした。これが逆に特徴なのかなと思います。
- 反省点としては、道幅など実際に測って南北の差を数値化しようとしていたが、交通量があり、難しかったことが残念でした。また、基地の跡地などに現在残っているものがなく、今の町を実際見てみた後の考察が出来なかったです。

# 参考文献

- 相模原市ホームページ
- 相模原市史\_\_近代資料編\_\_
- 相模原と米軍基地
- GRAPHITY郷土史としての米軍「キャンプ座間」 涌田 佑
- 国道16号線スタディーズ 編著者\_\_塚田修一/西田善行